

■籠手田安定 「琵琶湖疏水」で京都と抗争し、教育・治山治水など基礎をつくった滋賀県知事。一流の剣術家でもあった。

こてだやすさだ

勲進帳初演・1840＝ 肥前国松浦郡平戸村で、_戦国武将の籠手田氏を先祖とし、平戸藩の著名な藩主松浦静山の家臣となった桑田安親の長男に生まれる。

天保改革始・1841＝ 1歳：松浦静山が死去、詮が継ぐ。子沢山だった静山の十一女愛子が公家に嫁いで生んだ慶子が、のちに孝明天皇に内入し、明治天皇を産むことになる一方、かつては世界の窓口であった平戸は、薩長土肥といった討幕の雄藩に囲まれ、その存在は危ういものになって行く。

阿部正弘首座1845＝ 5歳：

北斎没・・・1849＝ 9歳：

ペリー来航・1853＝13歳：

平戸藩伝来の心形刀流剣術を学び、免許皆伝を得る。その傍ら直心影流戸田一心斎(栄之助)の道場に通り、師範代高山峰三郎と面識を持つ。

五ヶ国条約・1858＝18歳：

桜田門外変・1860＝20歳：この年、藩主で幕府大老井伊直弼が討幕の志士に暗殺されながら、彦根藩が維新後にあつさり頭を下げ、遣欧使節・・・1861＝21歳：藩主松浦詮の近習となり、広太郎から源之丞と改名。_藩探索方に任じられ京都で情報収集を行い始め、

8月18日政変 1863＝23歳：後に対抗する北垣国道が、長州に潜んで高杉晋作の奇兵隊に身を寄せた際、同僚になっている。

薩摩藩士密航1865＝25歳：この年、膳所藩に泊まることになっていた長州再征伐に向う將軍家茂に対する暗殺企図のデマで、大津本陣に泊まるよう予定を変えたことから、膳所藩は藩庁内の勤皇派多数を切腹・斬罪にするというヘマ(十一烈士事件)を起こしたことなどから、維新後、近江国は新政府から悪いイメージを持たれることになる。

大政奉還・・・1867＝27歳：薩摩藩から討幕の誘いを受けた平戸藩を代表して、大村藩や福岡藩に相談に行くも、藩の態度が定まらないなか、幕府と朝廷の双方からの命を受けるかたちで、_藩主に従い入京し、御所御台所の警衛に従事、

明治維新・・・1868＝28歳：天皇の二条城行幸、大阪親征にも供奉。_その間、五代友厚の旅舎を訪ね、ともにいた伊藤博文の両者から圧倒されるも、立て続けに五代を訪ねて開眼、以後、生涯師と仰ぎ、兄として慕うことになる。維新とともに、約300年ぶりに籠手田姓に復し、おそらく五代の配慮で、維新とともに置かれた大津県の最も下位の判事補に採用されるや、

戊辰戦争終・1869＝29歳：_出世は目覚ましく、大参事なると、文明開化にのみ走る風潮を批判する「政治国体上の意見」を表明、

明治6年政変 1873＝33歳：

初の民間工場1875＝35歳：_松田道之の後を受け第2代滋賀県権令に就任し、

三つの反乱・1876＝36歳：長男龍が誕生。

大久保暗殺・1878＝38歳：*ついに滋賀県令になるに至る。それまでの知事が近代化を急ぎに急いだのに対し、教育行政、治山治水事業に力を入れ、農家には米穀を貯蓄させ(社倉法)、商家には積立金を用意するようにして、将来の発展を促す住民本位の政策は、彼が著した「在職紀略」に明確に示されているが、維新以来、中央政府に評判の悪い滋賀県を、個性的に治めようとして、ますます睨まれることになる。

明治14年政変1881＝41歳：大津で再会した高山峰三郎を警察官に採用し、無刀流山岡鉄舟に入門して高弟となる。_この年、北垣国道が京都府で知事になるが、全く対照的で、北垣が始めた琵琶湖疏水を巡って対立することになる。この間、地元篤農家が、ハゲ山になっていた田上山に植林を始めたのを見て、来日まもないオランダの土木技師で、のちに“治水の恩人”と呼ばれるヨハネス・デレーケを招いて、県の事業にするなど、今日、琵琶湖の水量・水質が保たれているのは治山治水のお陰である。なお、デレーケは琵琶湖疏水について批判している。

新体詩抄・・・1882＝42歳：京都府知事北垣国道により、大蔵卿松方正義らが臨場して、京都体育場で開かれた撃剣大会に参加し、当時素性を隠していた、元京都見廻組組員で、晩年に坂本龍馬暗殺を証言した人物、渡辺篤と対戦。一刀正伝無刀流も免許皆伝となり、山岡鉄舟から一刀流正統の証の朱引太刀を授けられ、

岩倉具視没・1883＝43歳：東京での地方官会議に出席する際、高山峰三郎らを引き連れ、警視庁選り抜き撃剣世話掛を連破、明治剣道史の一大事件として知られる。_北垣から琵琶湖疏水について協議したい旨の通知があり、

秩父事件・・・1884＝44歳：_その内容を詳しく知ると、琵琶湖を守るべく、北垣側の京都滋賀新報社の批判の記事に、疏水問題に関する勸業諮問会の挨拶で強く反論するなど、県を挙げて反対し熾烈な戦いをし、内務省からの実現を前提とした予防工事の問い合わせに、水量コントロールの観点から堰の建設を提案するなどする間、副知事的立場の河田景福大書記官が、秘かに北垣と通じていて、伊藤博文らによって元老院議員への栄転という形で、県令を中井弘に交替させられも、河田は功労者としてその後留任、

内閣発足・・・1885＝45歳：宮内省濟寧館剣槍術大会に臨席。_内務省から琵琶湖疏水事業の許可が出た時には、島根県知事に転出させられる。その後は、全くの京都府ペースで、

国民之友始・1887＝47歳：山岡鉄舟の死の前年、その武士道講話を筆録したとされる。

帝国憲法発布1889＝49歳：

帝国議会始・1890＝54歳：_琵琶湖疏水は完成。南郷洗堰が20年後には完成していることや、大正に入って疏水感謝金で全てが清算されたのを見れば、滋賀県も成果を得たと言えるのである。役目を終えた中井弘も退任している。

足尾鉞毒始・1891＝51歳：新潟県知事になるが、自身の撃剣の門人を無試験で看守に採用したことが問題視され、議員から糾弾され、新潟新聞にも批判された。また、京都の剣術家小関教政父子を新潟へ招き庇護し、教政に心形刀流と無刀流の免許皆伝を与えた。教政を引き連れ旧新発田藩剣術師範今井常固の道場を破る。強い剣客を配下に従えたびたび道場破りを行ったことは籠手田の悪癖であったといわれる。

日清戦争始・1894＝54歳：

実は、北垣も山岡の弟子になり、一刀流を学んでいたが、高野佐三郎は北垣の剣術について、'男爵は山岡流であるが、実に柔らかでした。あれが本当の山岡流です。'と称えている。

白馬会・・・1896＝56歳：*その後転々と変わる知事に失政が多く、県会が強くなり過ぎて、中央の手に負えなくなってきたことから、大越享滋知事が急逝したのを機に、突然呼び戻され、12年ぶりに滋賀県知事になった矢先、滋賀県災害史百年の中で最大の洪水が起こる。京都側が恐れて、疏水開門を締め切ってしまったことが原因で、まさに京都ペースに造られた疏水工事のツケとも言える災害であるのに、京都側が応じないため、当時の京都側の言い分をもとに内務省に裁定を委ねるも無視され、なお京都側と協議して、

八幡製鉄始・1897＝57歳：_隧道に洪水時に対応できる鉄扉を取り付けることを勝ち取ったが、議会運営を円滑にしようとする第二次松方内閣によって、多くの知事が非職・更迭になると合わせて、30年にわたる地方官生活を終え、貴族院議員・錦鶏間祇候になってまもなく、

Bushidou・・・1899＝59歳：_琵琶湖岸の錦織の自宅で、没した。勲一等瑞宝章、男爵が追贈され、長男龍が襲爵。3年後、滋賀県政の功績を讃え、天台寺門宗総本山園城寺境内に“籠手田安定頌徳碑”が建立され、山岡鉄舟の武士道講話を筆録した記録をもとに、安部正人が編集した書籍「武士道」が公刊されている。滋賀県令時代に多くの治水事業に携わったことから高く評価され、同県長浜市の水引神社には肖像が安置されている。